

女性活躍推進フォーラム in 九州 第1回

架空案件で判断力を磨く、立川美夏子氏が講演で指導

人材育成委員会が主催する「女性活躍推進フォーラム in 九州」が7月24日、福岡・博多区の福岡県遊技会館で開かれた。4年目を迎えた今回は九州、中国エリアのホテル企業7社から11人の女性社員が参加した。

福山裕治九州支部長

「自社で役立てて」

冒頭に来賓挨拶を行った日遊協

九州支部の福山裕治支部長は「女性活躍の推進はダイバーシティにもつながる、非常に重要なテーマ。ここで学んだことを自社に持ち帰って仕事に役立ててほしい」と話す。参加者の奮起を促した。

前田竜哉委員長による、女性の活躍が求められる時代背景の解説やフォーラムの趣旨説明に続いて、全員による名刺交換、自己紹介が行われた。

第1部セミナーの講師は、(株)エンタテインメントビジネス総合研

究所の立川美夏子氏で、テーマは「インバスケット思考／究極の判断力を身につける!!」。

「インバスケット」というのは「未処理箱」を意味し、限られた時間、架空の立場で案件を処理するゲーム仕立てのトレーニング。最近では大手企業ばかりでなく多くの企業の人材教育に採用されていると

いう。

立川氏はインバスケットによつて判断力を高めることの重要性を説明するなかで、コンビニエンスストアのレジ前商品をついつい買ってしまう心理を例にとり、「コンビニやスーパーで購買がすすむのは、陳列に緻密な戦略が隠されているから。そこで店側は心理的に興奮状態を作り出したり、脳の疲労を高めたりしてお客様の正常な判断能力を失わせる。人間は1日に約9000回の判断を迫られている」という説もあり、脳は判断すること、考えることに疲れてしまう」と解説。しかし、トレーニングによって鍛えれば大量の重要

参加者 (順不同、敬称略、(株)略)	
Aグループ=井手睦美 (新富商事)、大庭麻美 (玉屋)、國方泉 (西の丸)、滝本歩実 (プローバ)	
Bグループ=前川純子 (新富商事)、小田ひとみ (西の丸)、立石美保子 (NEXUS)、伊地知由美 (マルハン)	
Cグループ=赤星有紀 (玉屋)、久澄恵子 (西の丸)、森口弥生 (プローバ島根)	



11人の女性社員が参加した

立川氏は「こうした判断には絶対的な正解はなく、判断までのプロセスが評価となる」とした上で、考え方として「優先順位は、するか、「緊急度」「重要度」を計りながらどう優先順位をつけていくかを短時間で判断するというのが目的となる。

立川氏は「こうした判断には絶対的な正解はなく、判断までのプロセスが評価となる」とした上で、考え方として「優先順位は、するか、「緊急度」「重要度」を計りながらどう優先順位をつけていくかを短時間で判断するというのが目的となる。

◀参加者はグループにわかれて活動した



あいさつする
前田竜哉委員長▶



◀来賓として参加した
九州支部の福山裕治支部長

3 グループで企画立案
第2部のグループディスカッショ
ンでは「自社に持ち帰り、実践

て、「見える問題」「見えない問題」で分けて問題 자체を明確化し、情報整理して様々な角度から考え、主体的に物事に取り組むという流れを紹介。さらに判断力を磨くことの重要性を強調するなかでは、客観的で明確な根拠を持ち、「決定」「保留」「判断の延期」など複数の選択肢のなかから、リスクを意識しながら最終的な判断を行う、という考え方のポイントを説明した。

さらに講義のまとめとして「今日のセミナーでは簡易版

だつたが、優先順位や判断力というものはトレーニングによって磨けるものだと知つてもらつたことに意義がある。これからのみなさんの人生や仕事に役立ててもらいたい」と述べた。

とのないよう順番付けをしていくことが必要だ」などと指摘した。また問題解決力を身につけるためのアプローチとして、
「見える問題」「見えない問題」で分けて問題 자체を明確化し、情報整理して様々な角度から考え、主体的に物事に取り組むという流れを紹介。さらに判断力を磨くことの重要性を強調するなかでは、客観的で明確な根拠を持ち、「決定」「保留」「判断の延期」など複数の選択肢のなかから、リスクを意識しながら最終的な判断を行う、とい

う考え方のポイントを説明した。

この厳しい状況から様々な問題に波及している可能性について取り上げ、「業界として新卒採用をサポートする事業が必要ではないか」「長期的な視野で学生へのアプローチができるないか」などの提案が出された。これを受けて、人材育成フォーラムとは別に、日遊協が過去6度開催したパチンコ産業合同説明会のような新卒採用に特化した事業も検討していくこととした。

合同説明会事業を提案 新卒採用の課題など審議

7月12日
本部会議室
出席委員等11人



業界の人事関連課題について話し合う人材育成委員会

ムは今後、9月、11月に予定されおり、最終回では参加者の所属先上司を前に、グループごとにプレゼンテーションすることになります。九州での女性活躍推進フォーラムでは、第2回目では「自社に持ち帰り、実践め方を協議しました。

前回（6月20日）の女性活躍推進フォーラムin東京の総括を行った。委員からは懸念事項や改善点も挙げられたが、全体を通して概ね好評だった。参加者の様子など様々な要素を踏まえながら、より充実したフォーラムとなるよう8月22日に予定されている第2回目の進め方を協議しました。

可能な企画のプレゼンテーション」を年間ゴールにおき、この日は「企画テーマの設定」と題して60分程度議論を交わした。

九州での女性活躍推進フォーラムでは、第2回目では「自社に持ち帰り、実践め方を協議しました。

ムは今後、9月、11月に予定されおり、最終回では参加者の所属先上司を前に、グループごとにプレゼンテーションすることになります。九州での女性活躍推進フォーラムでは、第2回目では「自社に持ち帰り、実践め方を協議しました。

ムは今後、9月、11月に予定されおり、最終回では参加者の所属先上司を前に、グループごとにプレゼンテーションすることになります。九州での女性活躍推進フォーラムでは、第2回目では「自社に持ち帰り、実践め方を協議しました。